

アーネスト・サトウ『会話編』 Part II 訳注稿 (4)

櫻井 豪人

第13章 (EXERCISE XIII, p.82)

[話者は、小さな家を持つ「侍」^{さむらい}と、その実務を引き受ける商人(「用達」^{ようたし}、または「出入り町人」^{ちやうにん})、そして下層階級の下僕である。]

1. 一時に, by the way(ところで) の意。小使い, a man-of-all-workの意で、「小」^こlittleと、「使う」to employ, useの語根「使い」から成る。抱えるは期間を定めずに雇うことをさす。「雇う」は臨時的に雇うことであり、その期間は短い。世話する, to render a service(奉仕すること) の意であるが、ここではto exist in obtaining(取得の仲立ちになること) の意。直訳は[I] am [a] person who wishes-to-get [you] to-assist-in-obtaining [an] honest person who is [a] single-man, for [I] think [I] will-employ [a] general-servant.「が」の後にあるべき「できようか」can you do it, またはその種の言葉が省略されている。
2. 一心当たり, (直訳は)mental-hittingで、conjecture(推測), an idea that one knows(その人が知る範囲での見当) の意。「見当たり」(第3章4番)と同様に作られた語。
3. 一頼みの, (直訳は)of august askingで、(ここでは)whom you asked me for(貴方が私に望んでいる人) の意。一体, (漢語)in fact(実際に), the fact is(実際は) の意。直訳はthe-fact-is this (man) is country fellow, and(dé=is, and)as-to honesty, as you-see, [he] is awkward-fellow(dé=dé atté)in exchange-for that [he] probably-will-not-be-of-use to you (o), but一。口語では、このように途中で文を中止したままにすることがよく行なわれる。
5. 一別に, (直訳は)in addition(加えて) で、other than this(これ以外の者), other than myself(私以外の者) の意。
6. 一ところ, the matter(事柄) の意。(訳者注:「給金のところは」は)as to the matter of wages(給料のことについては) の意。
7. 一直訳はAs to august agreement when do-[you]-grant-the favour-of doing [it]?
8. 一ごろは「ころ」timeのことで、副詞として、すなわちaboutの意に用いられる。取り替え, 「取り替える」to exchangeの語根。「一として」in exchange for (the agreement)((その契約の)見返りとして) の意。分^{ぶん}(漢語), share(割り当て), proportion(割合) の意。「半年分」^{はんねんぶん}はharf-a-year's proportionの意。(訳者注:「はんねんぶん」の「ん」の「n」は、bの前ではひとりで「m」となる。
9. 一はや, 謝罪を意味する一種の感嘆詞であるが、ここでは多くの手間を取らせたことに対する話し手の後悔の念を表現している。「はや」の後にあるべき「お願い申しま

- す」が省略されているが、その上でこの文を解釈すると、then, in whatever-way kindly, every-matter [I] have-the-honour-to prayとなり、英語で言うI may leave everything to you, then, Sir.(あなたに全てをお任せします) という意味になる。「お暇いとま」云々は「お暇申すことに致しましょう」I will make it(i.e. my next action)into taking leave.の省略である。
10. - 「まあ」の後に「帰らなくても」though you do not return homeを補って解釈せよ。直訳はis-not [-it]-good [even-though you do not go home].
11. - 取り急ぐ, 「急ぐ」to be in hurryに同じ。
12. - 直訳はIn that case, again shortly to talk come.
13. - 上がる, to ascendの意で、目上の人の家を訪問するという意味に用いられる。
14. - お召し抱えになりましたは「お抱えなされた」という言い方よりも丁寧な表現である。
(訳者注: 二番目の文の直訳は)I am the Kichisuké who became the august employé the other day.となる。引越す, 「引き越す」to remove one's residenceの縮約したもの。
15. - (訳者注: 「よく早く来た」の) 直訳はWell quickly comeで、「よくお出でなさい」well comeの類例。
16. - 不調法者ぶちょうほうもの, a bungling fellow(不器用な奴) の意。「どうぞ」云々はI have the honour to beseech you kindly(親切にさせていただくようお願い申し上げます) の意で、それゆえ to be kind to my shortcomings(私の短所に対して情深く接して下さい) の意となる。
19. - のうは英語で言うeh!のようなもので、江戸では、目上の人が目下の者に対して、あるいは同等の者同士の間で用いる。「な」も同様に、同等の者に対して用いられる。「ね」は親しい間柄で、特に女性や下層階級の者の口からよく聞かれる。辛抱する, to endureの意。この語がこのように用いられる場合は、下僕がある特定の苦難を与えられていることを意味するのではなく、単に彼の立場における日常の負担に耐えなさいということの意味している。
20. - かしこまりました, I have obeyedの意で、命令に従うことを下僕が約束する場合に用いる一般的な表現である。また、同等の者同士の間で要求に従うことを表わす場合にも用いられる。
21. - なぞはetceteraの意味で「夜分」に付け加えられている。空けないは「家を空けない」not-empty the houseのことで、(訳者注: 「家を空ける」は)leave the house emptyの意である。直訳は[You] must act so-as not-to-leave [the house] too-much empty at-nights etcetera. At-times-when, there-being (atté) something (in the way of) business, [you] must go out, surely informing [me] to-go is well.きっとは英語でto be sure to(必ず…する) を用いる場面で用いられる。
26. - 百 (hiaku) は「百文ひやくもん (hiaku mon)」a hundred cashのこと。「天保てんぽう」は百文錢 (the hundred-cash) が最初に鑄造された年代の名前 (「年号」) である。(訳者注: 「天保てんぽう」)

はPart I の英訳文にある。銅貨である天保通宝のことで、天保銭ともいう。一枚をもって並銭百文にあてたので、百文銭・当百銭とも呼ばれた。明治二十四年まで流通したという。「天保」は第18章18番にも出る。）

28. 御苦勞 (漢語), (直訳は) *august toil* (尊い苦勞) で、骨折りしてもらった人に対して礼を述べる際や、正式な訪問客に対して退出を許す際、使いを果たして戻ってきた者を迎える際に用いられる表現である。
29. 何なら, (直訳は) *if it is what* で、*what-d'ye-call-it* (何々とかいうもの) の意味で用いられている *what* の意味である。ここでの「何」は恐らく「お急ぎ」*august hurry* を意味しているものと推測される。(ここでは) *if you are in a hurry* (もしお急ぎなら) の意。
30. 大儀 (漢語); *fatigue* (疲勞) の意で、「御苦勞」と同様に用いられるものの、それよりは丁寧さに欠ける表現である。くんな, 「くれな」のこと。「な」は「なされ」の省略形で、動詞の語根の後について、命令法に相当する一般的な代用形を形成する。例えば「来い」に対する「来な」のように。
31. 洗う, *to wash, to wash off* (洗い流す) の意。
32. 落とされる, 「落とす」*to knock off* (たたき落とす), *take off* (取り除く), *rub off* (こすり取る) の受動態。「落とされる」は実際には能動態 = *getting taken off* (…を落とす) であり (訳者注: 英語には存在しない間接受動態 (迷惑受け身・被害受け身) をこのように説明している)、「苔」がその目的語である。「犬に手を噛まれた」(直訳) *got [his] hand bitten [by] a dog* というフレーズと比較せよ。たまるものか, (直訳は) *am [I] a-person who will endure* で、「たまらない」*I do not endure* (耐えられない) よりも強い言い方である。(訳者注: 後半の) 直訳は *[Rather] than that take-care in-order not-to-break [the] plants even* で、「でも」は皮肉の意を表わすためにわざと丁寧な言葉遣いをしている。「お茶でもお上がりなさい」*may I offer you some tea* に見られる用法がその本来の用法であるが、その場合は、お茶よりも良いものが無いことに対し、「でも」を用いることによって詫びていることになる。
34. 切り戸, 門や扉についている小さな扉。風であおる, *to flap with the wind* (風でバタバタ動く) の意。
35. 勝手, (直訳は) *convenience* (便利) の意。the private entrance は「勝手口」と呼ばれるが、それは恐らくそこが便利だからであろう。台所や家事室 (offices) に通じている場所なので、家のその部分に「勝手」という語が用いられるようになった。汲み込む, 「汲む」*to draw (water)* と自動詞「込む」*to be in* から。
36. 一々, (直訳は) *one-one* で、*each one* (各々), *one by one* (一つずつ), *every single one* (一つずつ) の意。気の利かないは「気の利いた」*sharp-witted* (才気の鋭い) の否定形である。「利く」は *to be efficacious* (効き目がある), *to have effect* (効果がある), *to be sharp* (鋭敏である) の意である。直訳は *Is-[it]-not well though [you] ask-not each-thing to me.*

37. 一直訳はHow doing is-good? [I] do-not-know in-the-slightest.
38. 一なるほど, just so(まったくその通り)の意。勝手はこの場合、家の間取りや使い方、慣習のことを意味する。無理もない, there-is-not unreason either (i.e. on your part)((お前の側にも) 不合理なことはない)の意である。世話を焼く, 直訳はto burn aidで、to take trouble for(…に手間をかける)の意である。「世話が焼ける」(の直訳)はaid burns-forで、trouble is taken for, is given-by(…に手間がかかる)の意である。後者のフレーズが連体修飾語句として用いられる場合は、「が」の位置に「の」が入る。(第1章19番を見よ。)形容詞としての直説法過去形の用法と区別するために、「よく分かった人 (shito)an intelligent personや「困ったこと」an annoying thingと比較せよ。骨惜しみ, 直訳はbone (i.e. labour) grudgingで、類例として「金^{かね}惜しみ」(直訳money-grudging、金銭的にけちなこと)や、「負け^{まけ}惜しみ」(直訳defeat-grudging、劣勢や失敗を認めたがらないこと)がある。(訳者注: 最後の文の)直訳はbut grudging-labour not-being, wonderfully good-is.

第14章 (EXERCISE XIV, p.86)

[同じ話者たち。]

1. 一直訳はMaster a-little [I] wish-to-petition thing there-is.
3. 一急病 (kiubio) (漢語) は、厳密にはsudden sicknessの意の名詞であるが、ここでは suddenly sickを意味する形容詞として用いられている。四^し五^ご日^{にち}は直訳するとfour five dayである。結合しない場合のfour daysとfive daysの意味では、「四^{よっか}日」と「五^{いつか}日」が用いられる。頂きとう、「頂く」to place on the top of the head(頭の頂に置くこと)から派生した願望形容詞で、それゆえto receive as a gift(贈り物として受け取る)の意の丁寧な表現として用いられる。「頂く」は「もらう」よりも丁重であり、「もらう」と同様に補助動詞としても用いられる。「頂戴 (漢語) する (または「致します」)」はその両方の意味 (訳者注: 「頂く」と「もらう」の意味) の一般的な同義語である。
4. 一よく, (皮肉な意味での)wellの意。直訳はYour father well constantly falls-ill, eh! Again falsehood telling to take-amusement [you] probably are going.「遊び」のアクセントは最初の音節に置かれ、「遊ぶ」では二番目の音節に置かれる。
5. 一 (訳者注: 「どう致しますて」の) 直訳はHow doing doingで、すなわちhow is it possible?(どうしてそのようなことがあり得ましようか)の意となる。
7. 一直訳はTo somewhere have-dropped [it] completely.
8. 一直訳はLook at that?
10. 一言わずと、「言わずに」と同じ。直訳はWell, nonsense not-saying bath's preparation to-make even is-good.

11. 一直訳はOh, Kichisuké, a-little to-say thing there-is because here coming is-good.
12. 一 (直訳は) Yes. What august business is-[it]?
13. 一 仕法替え, change of arrangement(配置替え) のこと。「仕法」はmethod of doing(方法), system(仕組み)、「替える」は他動詞でto changeの意。ところで、(直訳は)in the placeで、whereupon(そこで), and so(それで) の意。この「ところ」は、厳密には前の文につなげるべきであるが、その場合は (訳者注:「するつもりだ」の)「だ」に代えて「の」を用いる。人 (Shito), personsの意で、すなわちservants(下僕)をさす。直訳は[It] is-not even another thing, but on-account-of economy [it] is [my] intention at-this-time to-make house's change-of-system. Whereupon, as [I] must diminish [the] people, I-am-sorry-for-you, but to you also must [I] give leave.「ほかのことでもないが (または「ごさいませんが)」は、仕事上の会話を始める場合の常套句である。
14. 一 (訳者注:「さようでございますか」は)Is that so?の意。是非も無い、(直訳は)there is neither yes nor noで、it can't be helped(どうすることもできない) の意。「こと」に係る連体修飾語句である。
15. 一 いや, no,(you need not be so unhappy about it) (いや、(お前がそれほど悲しく思う必要は無い)) の意。なりは明らかに「なる」to beの語根である。(訳者注:「十日なり二十日なりいて」の直訳は)be [it] ten days, be [it] twenty days.「二十日」を表わす英語はfortnight(二週間) が最も近いものの、それ以上似ている語が存在しない。奉公口, 「奉公(漢語)」はservice、「口」はmouthの意。英語で言うan opening(勤め口) のこと。「奉公口」は就職先そのものではない。就職していることは「入っている」to have got into (somebody's house)((誰かの家に) 入っている) という。引き払う, to withdraw (引き揚げる), clear out(出て行く) の意で、「引く」to drawと「払う」to sweepから。この成語になるとquite away(完全に去る) の働きを持つ。また「引き取る」も用いられる。直訳はNo. But since [it] is-not [a] hurried thing either (mo), now my house in, be [it] ten-days, be [it] twenty-days, being, opening-for-service having found, according as [it, a situation] is, to-with-draw is-good.
16. 一直訳はIf [I] get [you] to-do so [for me I] greatly am-succoured.「頂く」は補助動詞の一つで、「もらう」「申す」「なさる」「下さる」「くれる」「あげる」「あそばす」のように、代名詞を不要にする働きがある。
17. 一 貸し越し, lending in advance(前もって貸すこと), an advance(前金) の意。「貸す」to lendと「越す」to pass overから。及ぶ, to reach to(…に届く), to go as far as(…まで行く) の意。その否定形はis not necessary(…は必要ない) の熟語的意味でも用いられる。直訳はWhat! Here's (i.e. my) convenience at leave giving since [it] is, although there-is advance of wages, as-to that [it] is-un-necessary to return [it.]
18. 一 にあずかる, to be a recipient of(…の受取人になる), the subject of(…の対象になる) の意。

- (直訳は) All-sorts liberal feeling being-a-recipient-of [it] is [a] thing to-be-grateful-for.
20. —どっこ, 「どこ」の強調形。
21. —直訳はnot-going ness [a]-there-is-thing? Having business [for you] though [I] called [you] is-[it]-not [that you] are-not in [your] room?
22. —直訳はYes. Quite-true. [At] that time having-gone to hot-water [I] was out.
23. —異見, rebuke(非難)の意で、直訳はdifference of opinien(訳者注: opinionの誤り)。「異見する」はto admonish(忠告する)の意。あまっさえ, moreover(その上さらに)の意で、概して不愉快さの原因を列挙する場合に用いられる。欺くとは「欺くということ」the thing called deceivingの省略で、to deceive your master(主人を欺くこと)の意。直訳はTalk nonsense! (if you dare). At two o'clock, midnight, how [is] hot-water [a] thing [that] is? Since some-time-past [I] frequently have admonished [you], but my saying-thing even a-little not-hearing, moreover to deceive [your] master is [an] audacious fellow.
24. —直訳はYou-say shocking thing (Sir). How could [I]? By-any-means [a] lie [I] do-not-tell [you].
25. —直訳はJust-now before [my] eyes is-[it]-not [that you] have-told [a] lie. Ah, if [I] speak to [a] fellow like you, [my] stomach rises. Since [I will] speak to [your] surety, quickly calling [him] come.
26. —直訳はTruly I have-been bad. Since [I will] pay attention from this, this time pray! forgive [me]. 「なすって (nas'tté)」の後にあるべき「下され」が省略されている。(訳者注: 最後の文の直訳は) Truly [I] have feared profoundly.
27. —直訳は[it] is [a] thing of-long-endurance (i.e. your bad conduct is nothing new). Whatever you may say, as consent this-time cannot-be, quickly going come. とう, 「とく」quickly, earlyの縮約形。「—から」はsince an early date(早い時期から)の意。出すつもりだった, (訳者注: 以降の直訳は)[it] was [my] to-put-forth intention, but thinking 'well, well,' [I] applied consideration, but now (mô) one-day cannot keep.置く, 英語でto keep a French cook(フランス人の料理人を置く)などという場合のような、to keep(雇っておく)の意味である。
28. —人 (shito), personの意で、すなわちmessenger(使者)のこと。直訳はjust-now [it] was august messenger.
29. —存じ寄り, views(考え)の意。直訳はYes. Other indeed [it] is-not but, it is (sa) that Torakichi's affair. Since there-is a-little opinion (of my own) [I] think that [I] will give-out leave.
30. —不調法^{ふちょうほう} (漢語), misconduct(不品行)の意。
31. —極^{ごく} (漢語), veryの意。神妙^{しんびょう} (shimbio) (漢語), (直訳は)divinely marvellousで、admirable (見事な), excellent(素晴らしい)の意。他人を褒める際に用いられる。追々^{おおい}, gradually (次第に)の意。「追う(追ふ)」to pursueの語根を繰り返したもの。増長(漢語), 直

訳はincreasing and lengthening。「——する」(の直訳)はto grow-greaterで、become presumptuous(ずうずうしくなる), get stuck-up(高慢になる)の意。直訳はAs-to [the] beginning [he] was very excellent, but gradually becoming presumptuous, [my] commanding a-little even not-hearing, moreover [his] deceiving me by telling lies is frequently.

32. —そりや (soriya) は「それは」のこと。直訳はAs-to that, [he] is [an] unprincipled fellow. I also thought [he] is-not such-a fellow.しては「そうして」のこと。直訳はAnd as to wage's matter how is-[it]-doing?
33. —日割り勘定, calculation according to the number of days(日数による計算)のこと。「日^ひ」dayと、「割り」to divideの語根「割り」、及び「勘定」(漢語)calculationから。納める, to pay in(払い込む), return (to a superior)((目上の人に)返金する)の意。直訳はSince [a] half-year's part having-lent-in-advance is, served quantity making into calculation-according-to-the-number-of-days, remainder having-paid-in, to-go is well.
34. —いずれ, at all events(いずれにしても、とにかく)の意。第5章28番と同様。

第15章 (EXERCISE XV, p.91)

(訳者注: 第15章以降において、Part I およびPart IIIに出てくる例文の漢字表記は、基本的にPart IIIの漢字表記に従う方針を取る。ただし、字体は現代の通用字体に直し、その他の仮名遣い等の表記法については、これまでの方針通りに記すのを原則とする。)

[話者は徳川政権下の二人の侍。]

1. —祝儀 (漢語), felicitation(祝辞)の意。船頭や渡し守、歌い女 (singing-girls) などに与えるvails(心付け)の意味にも用いられる。「明けまして」の前に「年^{とし}が」the yearを補って解釈しなければならない。には動詞「ある」とともに用いてcopula(訳者注: 連結詞などと訳され、主語と述語をつなぐ語、特にbe動詞を指すが、時にbecome, seemなどを含める)をなす際に文語体において用いられる語であるが、口語で「で」が用いられるのと同様である。しかし、ここでの場合のように、特定の言い回しの中では(訳者注: 口語でも)出現する。直訳は[I] say-up (offer) [to you] new-year's felicitation (shiugi wo). Opening [it] is [a] good spring.
2. —同様 (漢語) に, in the same wayの意。「ご ——」は, in the same way as you, on my side also(あなた様と同じように、私の方も)の意。御^お目^め出^で度^とう (「御座^{ござ}います」), I congratulate youの意。旧年 (漢語), 直訳はold yearで、last year(昨年)の意。この文は「旧年は色々ご厚恩にあずかりまして、どうぞ相変わりがませずご懇意を願います」を省略したものである。厚恩 (漢語) は、和語でいう「厚き恵み」であり、generous kindness(多大なる親切)の意。相変わりがませず, unchanginglyの意で、語調を整え

- る「相」(第10章5番)と、「変わる」to changeの丁寧形の否定の分詞との複合語である。「相変わらず」も同様の意味で用いられる。「懇意」(漢語)は、friendship(親交), friendliness(友好)の意である。最初の節の「はや」は、(訳者注: 省略した際に生じた) 切れ目を埋める役割を果たしている。新年に訪れた客の前には「食い積み」を置くのがしきたりである。
3. 一 ^{まで}迄に、(直訳は)as far as(…まで)で、by way of(…として、…のつもりで)の意。「御 ^{はずかしゅう}恥敷(o hadzukashiu)」はdisgraceful to offer to you(あなたに差し上げるのが恥ずかしい)の意。この文の最後に「差し上げます」I offer to youを補って解釈されなければならない。
4. 一 丁寧には副詞であり、「お年玉を下さること」your giving me a new year's presentのようなものを補って解釈されなければならない。その贈り物は部屋の入り口の近くで提示され、そこで主人が「さあ、まず、まず、^{こちら どうか}此方へ何卒(お座りなさい)」there, in the first place, pray take your seat hereと言う。態と、purposely(故意に)の意であるが、ここではforcing yourself(無理にでも…して下さい)の意を持ち、force yourself to do me the favour of deigning-to-partake of a cup of *tosu*(無理にでも私の願いをお聞き頂き、「屠蘇」を一杯召し上がって下さい)の意となる。一献(^{ひとつ}shitotsu)は「一杯」のこと(第9章23番を見よ)。
5. 一 「必ず^{どうか}何卒」という語は、「まあ(mâ)」(訳者注: Part Iはmô、Part IIIも「モウ」となっている)という語の後につなげて用いるという厳格な規則に従わなければならないが、第11章11番と同様の倒置がここでも起っている。必ずは「かり」provisional(仮の)と、「なる」to beの否定の分詞「ならず」との複合語と言われているが、一方で、疑問の助詞「か」と「ならず」という語源解釈も存在する。後者の解釈の方が、その語が持つpositively(断固として)という語義にふさわしいように思われる。もうはここではany more(もうこれ以上…しない)の意味を持つ。
6. 一 「雑煮」は家族向けの料理であり、通常は訪問客に出すものではない。
8. 一 直訳はby the way (*toki ni*) [it] seems as-if (*yô des'*) [I] am talking (*hanashi môsu*) nonsense (*tsumaranai koto*) to-you (*o*), but (*ga*), to put (*ire-*) a picture (*edzu*) of (*no*) *takurabuné*(訳者注: *takarabuné*の誤) under (*no shita é*) the pillow(*makura*) on (*ni*) the night (*ban*) of (*no*) the second (*futsuka*), and (*-té*) to divine (*uranaimasu ga*) that (*sono*) night's (*ban no*) dream (*yumé wo*), what sort of (*dô iu*) meaning (*imi*) is (*dé gozaimasu*) that (*aré wa*).
9. 一 空(^{くう}漢語)な、empty(無意味な), vain(無駄な), foolish(馬鹿げた)の意。左様さ、yesの意であるが、確信の持てない様子で言っている。何^{なん}だかは返事に用いた場合、I don't knowの意味となる。日本人は、「何だか」という言葉でwhat is itと尋ねられた場合、「知らない」という言葉でI don't knowと答える代わりに、その質問(訳者注: 「何だか」)を繰り返し、「何^{なん}」に強調を置くことによって(訳者注: I don't knowと)答え

る。直訳は[it] is foolish thing, but because [it] is custom of from antiquity [people] do so.

10. 日本人には一つの言い習わしがあり、縁起の良い夢はまず第一に富士山の夢、第二に falconの夢、第三にbrinjall(茄子の実)の夢、第四にprivy(便所)の夢、第五にfuneral(葬儀)の夢であるという。これを「一富士、二鷹、三茄子、四雪隠、五葬礼」という。ここでの数字は序数と捉えるのが正しいが、多くの人々がこれを基数であると捉えている。とか言う; 「と」と「いう」の間に挿入された「か」は、「とと言う」という言葉に some such……as(…のようなもの) という意味を与える。(そして(訳者注: 「とか言う」は)しばしば英語における冠詞の役割を担う。)
「馬鹿らしく思います」は「馬鹿らしいと思います」と同じ意味である。(訳者注: 「しかし」以降の)直訳はbut as [they] say that if [one] sees happy dream that year's fortune is good, having seen some such dream as firstly a Fuji, secondly a falcon, thirdly a brinjall, one would like to become say (demo) daimiô. 願望形容詞の後に「もの」がついたこの(訳者注: 「…したいものです」という)成句は、本当にそうしたいということの意味することはあまり多くなく、むしろ、もし万一できることならばこうしたいという場合の方がよく用いられる。「もの」は「こと」abstract thing(抽象的な事)の意味を持ち、(訳者注: 「大名にでもなりたいものです」の)全体の意味はto become daimiô is a desirable thing(大名になるのは魅力的なことだ)となる。「たい」は、「なり」と同様、to seeという動詞(訳者注: 直前の「夢を見て」の「見る」という動詞をさしている)からもつながっている。二つ以上の動詞が一つの文の中で等位接続されている場合、最初の動詞は通常、分詞として(あるいは時々語根の形で)現れ、最後の動詞のみ、全ての動詞に同等に適用されるべき活用を受けて現れることになる。
11. 一具足開き, 直訳はarmour-opening。これからの一年に備えて、一月十一日に最初に鎧を着きて祝うのが裕福な「侍」家庭の習慣であった。「開き」は、箱から取り出されることをさす。貧しい「侍」や下級階層の人々には「鏡開き」と呼ばれる同様のお祝いがあり、その時になって初めて、豊穰の神(「歳神」)に供えられたまるい「餅」が切り刻まれる。この言葉における「開き」はdividing(分割する)を意味しているように思われる。一献, 「いちこん」の縮約したもので、「酒」の同義語として用いられるが、実際には、「酒」をもう一杯献じる場合の助数詞である。「献」はto offerを意味する漢字の「呉音」(Hepburnの辞書の序文を見よ)で、「漢音」は(「献じたい」の)「けん」である。直訳はNo, such jokes abandoning, on the eleventh, as you know, being the gusokubiraki, because [I am] earnestly desirous-of-offering one-cup [to you I] pray-for [the] august coming.
12. 一そこで, 直訳はthereであり、転じてthereupon(そこで早速), that being agreed(そのことが同意されたところで)の意。初卯; 「初」the first(主に複合語で用いられる)と、「十二支」すなわちtwelve signs(Hoffmannのp.155を見よ)の一つで「うさぎ」の意味

- の「卯」hareとの複合語である。全ての年がそうであるように、全ての日にも六十日の周期で組み合わされた記号により付けられた名があるが (Hoffmannのp.156を見よ)、その最初の部分 (元素の名前が付けられたもの) は会話において普通省略される。例えば、「甲子の日」は単に「子の日」と言われるように。江戸ではその年の最初の「卯の日」に、妙見菩薩を祀る柳島の妙見堂に参詣するのが慣わしとなっており、妙見菩薩はその崇拝者に対して幸運をもたらすと信じられている。
13. 一 ええはwell(ええと、そうね)と答える場合の間投詞である。確か, certainの意味の形容詞語根であり、英語のsurelyのように、程度の差はあれ多少とも確実性のあることを表現するために副詞的に用いられる。「か」は、間違っているかもしれないという自覚が話し手自身にあることを暗に意味している。
14. 一 恵方 (漢語), 直訳はbenevolent side(慈悲の方)で、幸運な方角のこと。正確には「明きの方」the open sideと呼ばれる。彼処, thereの意で、すなわち「卯」と呼ばれる方角のこと。元旦に家の「恵方」にある神社に参詣することが慣わしであるが、この話し手は明らかに自分の習慣を幾分緩く変えている。彼は妙見菩薩に敬意を払うことと「恵方参り」とを同時に行なうことで、一石二鳥(「両方兼ねて」)しようと提案している。其の代わりに (訳者注: Part I の例文はsono kawari、Part IIIも「其代」), by way of compensation(代償として)の意で、英語のbut thenのように用いられる。直訳はThen as the é-hô also is there this year, combining both, [I] will accompany [you], but then as-to the eleventh [I]-excuse-myself-[to you].
15. 一年始 (漢語), 直訳はyear-beginningで、new-year's visit(新年の訪問)の意味にも用いられる。「年頭」(year-head)もその同義語である。廻らなけりゃ (mawaranakeria), 「廻る」to go round, to make a roundの否定の条件法。「w」の音はほとんど発音されず、最初の「a」に強勢が置かれる。直訳はthen on the-eighth-day [I] earnestly pray [you to come]. Well, as-for to-day, since [I] must make-a-round to elsewhere to [felicitate on] the-new-year, [I] will certainly again call-on [you.]
16. 一 童蒙の氣に成る, (直訳は)to become child's feelingで、すなわちto imagine oneself a child(自分が子供になったように想像すること)の意。のは所有ではなく属性を表わし、「童蒙」が「氣」を修飾している。このような「氣」の例としては以下のようなものがある。「あの人 (shito) は自分で利口な気になっている」that person imagines himself clever. 「いい男の気になっている」imagines himself handsome. 直訳はin the-same-way as yourself (you and I together) is-it-not that, imagining [ourselves] children [we] will-look-at [them].
17. 一 道外どうけでいて, being buffooning(茶化している、あざ笑っている)の意で、継続相現在「道外どうけている」is buffooning, amusingどうけの分詞。「道外どうけた」は、「困った」がannoying(迷惑な)の意味に用いられるように、amusing(滑稽な)の意味にも用いられる。陽氣 (漢語), cheerfulness, funの意。「陽気な」はcheerful, funny, exhilarating(陽気にさせる)の意。

「道化たものでとんだ陽気です」も(訳者注:「道化ていてとんだ陽気なもんです」と)、同じ意味の正しい言い方である。左様なら、(直訳は)if [it] is thusで、in that case(その場合は)、well then(それでは)の意。直訳はAs-to that, having seen [it, I] will-goで、すなわちI will see it and then go(それを見てから行きましょう) = I will just stop and see it(ちょっと立ち止まってそれを見物しましょう)の意となる。

18. 一才蔵と太夫(訳者注: Part I とPart II はTaiyuとあるが、Part IIIは「太夫」)は「万歳」と呼ばれる舞踊における二つの役割の名前である。却っては、(訳者注: 通常は)二人のうち「太夫」の方が上手に決まっているということを暗に意味している。(訳者注: 「至極笑わせます」の直訳は)[He] makes-laugh extremely.
19. 一皺延ばし, 直訳はwrinkle-stretchingであり、「皺」wrinkleと「延ばす」to stretch, to lengthenから。直訳はah [I] have-done pleasant wrinkle-stretching. But, immediately, [it] is rudeness, but, because [I] am-in-a-hurry. この文は以下のような文を省略したものである。「もうそっとお話し申し上げて、ほどをはからって、座敷みなひけて一緒に退散すべきはずだが、しかしながら急ぎますから早速(失礼でございますが(訳者注: 冒頭のERRATAで原文gozaをgozaiに訂正))お暇を申します」I ought to go on talking much longer, and, carefully estimating the length (of my visit), to withdraw together (with the other visitors) when the room (company) retires, but since I am in a hurry, I take my leave of you at once (though it is rude to do so).
20. 一直訳はIs [it] so? In-that-case on the-eighth [I] will-inquire, whether-or-no.
21. 一左様なら, good byeの意。直訳はin that case (I shall see you again)(それでは(またお目にかかります))。いつも正直な気持ちで言うとは限らない言葉ではあるが、丁寧に言わなければ(訳者注: またお目にかかれるという)保証は得られないであろう。

第16章 (EXERCISE XVI, p.97)

[前章と同じ話者。]

- 一頼みましょう, 「頼む」I ask forから来る言葉であるが、日本ではドアをノックしたり呼び鈴を鳴らしたりする代わりにこう言う。「お取次ぎを」ushering-in(案内して通すことを)を補って解釈せよ。(訳者注: 「取り次ぎ」は)「取り次ぐ」to be a medium of communication(連絡の仲立ちとなること)の語根。
- 一誰何は「誰」who (is it)?の転訛であるように思われるが、中にいる下僕の返事である。
- 一出ましてす (demashites), [I] have comeの意で、「出ましてございます」のこと。これは「でございます」が「です」になるのに類する表現である。在宿 (zai-shiku)(漢語)は書く場合には「ざいしゆく (zai-shiuku)」と綴られる。在らっしゃいます, 「あらせられる」の縮約形「あらっしゃる」から成り、「いる」から「いらっしゃる」

が作られるのと同じように「ある」から作られる。直訳は[I] am T.M. [I] have come desiring-to have-audience, and your master is (he) at-home?

4. 一から、(訳者注: この文のももとの語順は)because I have to tell my master, please wait here a littleである。もとの文に対して倒置が起っている。
 5. 一^{うじ}氏, family(家族), family name(姓)の意で、(訳者注: 「氏」という敬称は)姓のみに続けて用いられ、それゆえ女性に用いるのには適さない。通常用いる「様」よりも硬い表現で、このような呼び方をするのは「侍^{さむらい}」階級に限られる。能^ようこそ、は「——いらっしまし(irasshimasi)」(訳者注: いらっしやいましirasshaimasiの誤りか)well indeed come!(本当によく来ましたね!)の省略である。奥^{おく}, the back part of the house(家の後ろの部分)、それゆえ居住者の居室を指す。(訳者注: 「奥へ」の後にあるべき)「お通り下され」please pass inまたはそれと同等の言葉が省略されている。
- (訳者注: 以下、6番の注釈)「はや」の後は「恐れ入りました」I humbly apologizeが省略されているのであろう。(訳者注: 6番の前半部分の)直訳はthe-other-day truly [I] did-not trouble-myself-about you, and really, alas!「申しませんで」は(訳者注: 申します)の否定の分詞で、not-having-doneまたはnot-doing=did not doの意である。「歳玉^{としだま}を」の後にあるべき「いただきまして」received (from you)または「下さりまして」bestowing (on me)が省略されている。(訳者注: 「その節は」以下の)直訳はOn that occasion [you having bestowed on me] specially [a] new year's gift, [it] was hard-to-be (a thing to be grateful for).
7. 一「却って」の後に「かたじけのう存じます」I thank youまたは「痛み入りました」I felt great pain i.e. was very gratefulのような語を補って解釈せよ。(訳者注: 前半の)直訳はno, being-a-recipient-of all-sorts-of feasting. I in-particular on-the-contrary [felt grateful]. 出掛けは「出掛ける」to begin to go out, to start from the houseの語根。(訳者注: 後半の)直訳はto-day well early coming-out you-have-done.
 8. 一直訳はSince [it] is previously with-you (o) promise-ed (no) hatsu-u, in-your-company [I] will visit-the-temple.
 9. 一直訳は[I am] earnestly [desirous-of-going] in-your-company. I also was enjoying-the-prospect-of that, but since as-yet a-little early [it] probably-is, just-now rubbishy thing [I] orderd. Just one-cup [of sake] doing [we] will-go.
 10. 一何^{なん}は「御親切^ご」august benevolence(尊い善意)のこと。第13章29番を参照。ひどくいい加減な話しぶりであるが、上流階級の間であってもごく一般的に用いられる表現である。御馳走^{ごちそう}になる、to be feasted(御馳走される)の意で、「——にあずかる」よりもくだけた表現である。帰^{かえ}って、「帰る」の分詞であり、ここではその第一義であるhaving returnedの意味で用いられている。気色^{けしき}(漢語)はこの場合、単に自然の情景のみを意味しているのではなく、正月のあらゆる人工的な飾りつけをも含んでいる。直訳は

No, as-to that [it] is [the] what-do-you-call-it which-you-have-taken-the-trouble-to-do (*sekkaku no*), but after returning [I] will-be feasted by-you. To-begin-with is [it] not [that we] will-go-out as-quickly as-possible so-as to-behold the spring view sufficiently.

11. 一 ^{いづ}何れでも, either, whicheverの意。随意 (漢語), 直訳は、「随」がfollowing(…に従っている), according with(…と一致している)、「意」がthe mind, wishesで、「ご——」は as you may wishの意である。供, attendant(案内係), retinue(従者)の意。「御——する」は、直訳がbe your attendantであるが、同等の人々の間でしばしばaccompanying you(あなたに随行する)の意味に用いられる。
12. 一 直訳はAh, as-for to-day, because [it] is good weather please look, well, [the] numerousness of [the] shrine-visiting's people!
13. 一 直訳はYes, since [they] being obstruction to walking, [it] is on-the-contrary too what-do-you-call-it, shall-[we]-go another road.「何」^{なん}はここでは「面白くない」disagreeableまたはそれに類する表現を意味している。「外方」^{ほか}(訳者注: 冒頭のERRATAで原文(*Hoka uo*を(*Hoka no*)に訂正)は、another instead(何か別のもの)という意味でのanotherの意味である。in addition(さらに加えて)という意味のanotherは名詞の後に「もう一つ (shitotsu)」をつけるか、名詞の前に「ほかに」や「別に」をつける。「もう一つ (shitotsu) の」は二つのうちのthe other(もう一方)という意味である。
14. 一 ^{どこ}何処も, anywhere, everywhereの意。「込み合いましょう」の前にあるべき「人 (shito) が」peopleが省略されている。
15. 一 やあ, 「いや」に同じ。向こうから, (直訳は)from [the] oppositeで、from over there(あちらから), from the opposite direction(反対の方向から)の意。(訳者注: 後半の直訳は) In-all-probability having-done temple-visiting [it] will-be (probably is) returning.
16. 一 いや, 驚きを示す感嘆詞。是^{これ}はここでは「——お珍しい」hullo, you are rareの省略で、すなわち、あなたにまたお会いできて嬉しいという意味である。何方^{どなた}も, (直訳は)who-alsoで、whoever, all of you, both of youの意。揃い, 「揃う」to be complete(全部揃っている)の語根。「揃いで」togetherは「揃って」に同じ。「揃いで」の後に「御参詣なさるか」を補充せよ。「まあ」の後に「お出かけなすった (nas'tta)」を補充せよ。「まあ」は本来「よう」の前にあるのが適切であるが、この位置に移動されている。(訳者注: 最後の文の直訳は)I also just-now-am returning, but really, being (*dé*) tremendous (number of) people, completely cannot-work.「私」^{わたくし}を「御座ります」(訳者注: Part I は gozaimasu、Part III も「御座ります」)の主語(訳者注: 原文nominativeは本来subjectとあるべきところ)と呼ぶことはできない。真主語 (real subject) は省略されているitである。
17. 一 ^{ここ}此処ら, hereabouts(この辺に)の意で、「ここ」this placeの複数形。此^{こんな}様に, thus(このように)の意。(直訳は)Since here-about, thus [the people] crowd together, [it] will-be

so. Well, quietly [we] will proceed.

18. ー直訳はIn-that-case, grant your pardon、すなわちgood bye, excuse meの意である。
19. ー剛儀 (漢語) なは16番の「大変な」(訳者注: Part I はtaihen no、PartIIIも「大変の」
となっている) と類似する語である。直訳は[it] is tremendous (number of) people. 繭玉は、
竹や柳の枝に「団子」と呼ばれる小さな米のダンプリングをつけたもので、その団子
はコクーン (日本語では「繭」と呼ぶ、「まい」はその方言形) のような形をしている。
またその枝には、サイコロ、金色の紙で作られた「小判」、1000「両」と書かれた紙箱、
お多福という女性のお面、その他吉兆を示すものなど、様々な子供のおもちゃも付け
られる。売り切れる、「売り切る」to sell the wholeに対応する自動詞。直訳は[I] think [I]
will-buy [a] souvenir *maidama*, but [it] seeming that [they] are-all-sold, there-are-not [any].
20. ー彼処 (最初の音節にアクセントが置かれる)there, yonderの意で、「そこ」よりもさら
に遠い場所をさす。直訳はSee, see! Since yonder [it] is two three pieceny to-be possessing
appearance, quickly going [we] will-buy.
24. ー残り物 (訳者注: Part I はnokori-mon'、PartIIIも「残り物」), leavings, the last of anything
の意で、「残る」to remain behindと「もの」thingから。
25. ー途方も無い、「途方もない」の卑俗な言い方。広く一般の人の中で、「ai」とい発音は
しばしば「ei」という発音に変えられる。(例えば「だいぶ」considerablyを「でいぶ」、
「いけない」won't doを「いけねい」など。) また上流階級が下層階級に話しかける際
には、下層階級の言い方をまねる。言いほうだい, saying without restraint (遠慮なく話す
こと) の意。「言い」が動詞の性格を保持しており、「掛け値」をその目的語としている。
ほど程, quantity (量), a proper quantity (適量), moderation (節度) の意。直訳はBut (訳者注:
原文はBntと誤る) if-[it]-be *ichibu nishi*, though [I] buy [it] is-well.「二朱 (nishi)」は「に
しゅ (nishiu)」と書かれる。
26. ー過ぎ、「過ぎる」to go beyondの語根。帰りとは「帰りに」と同じで (第3章46番を見よ)
(訳者注:「致す」の記述をさす)、他のどの行動よりも‘家に帰ること’を選択しましよ
う、という意味。
28. ー気の毒は、ここでは友人に費用を出してもらうことに対して申し訳なく思う話し手の
気持ちを意味している。
29. ーどうせ, in any case(いずれにせよ), at any rate(いずれにせよ) の意で、恐らく「どう」
howと「する」to doの命令法「せ」であろう。「どうせ」の直訳はlet it be how (it will).
御出でだと = 「お出でになれば」「お出でなされば」。「こそ」の後に「幸いでござい
ます」it is good-fortuneを補充せよ。本の, real(まったくの), simple(純粋な), mere(単
なる) の意。有り合わせ, that which happens to be available(たまたま入手してある)
の意で、「有り合わせる」to be at hand, to be available(手に持っている、入手してある)
の語根。直訳はWhat! since at-any-rate, always I even being alone do a-cup, if [it] is your

coming, on-the-contrary [it is] I [who am fortunate]. But by-way-of exchange, being mere what-happens-to-be-available, there-is-not anything.

30. 一直訳はHow can that be? But in-that-case shall [I] be feasted by-you?

第17章 (EXERCISE XVII, p.102)

[旅行者は中級の役人。]

1. 御用 (漢語); 直訳はaugust businessで、すなわちgovernment service(政府の用役)の意。仰せ付かって、「仰せ付ける」to command(命令する), to order to do(…するように言いつける)の受動態「仰せ付けられる」が転訛した「仰せつかる」から。出立, starting^{しゅつたつ}の意。「——致す、する」などはto startの意。「出る」to go forthの意味の漢語「出^{しゅつ}」と、「たつ」to startという和語から成る。て、ほとんど意味の無い間投詞(expletive)である。
2. 道中 (漢語); on the road(道で), while on a journey(旅行の途中で)の意。また、ここでの用法のようなa journey(旅行)の意にも用いられる。取り揃える, to complete a series or set(続き物や品物一式を全部揃える)の意。「揃える」に同じ。動詞「取り」は、例えば「取り調べる」などのように、ちょっとした強意の働きを伴って前接する。(直訳は)In-that-case [the] journey's august preparation etcetera until then [one] must complete.
3. 勿論 (漢語); of courseの意で、直訳はthere is no argument(議論の余地はない)またはdispute not!(論じる^{なか}勿れ!)である。「勿論の」はindisputable(議論の余地のない、明白な)の意、「——のとき」はit is an of course matterの意。少し後に「も」が来る「勿論」は、not only……but alsoに相当する。例えば「国内の人(shito)は勿論外国人にもそんな悪事を好んでなす者はあるまい」は、not only amongst natives of this country, but amongst foreigners also a person who would wantonly commit such a crime can hardly existの意である。この成句は、必ずしもこの例のように強い意味で用いられるとは限らず、単にand also(そして…も)の意味で「勿論」が用いられることもしばしばある。就いては; andの意で(ただし文頭以外ではこの意味で用いられない)、「つく」to follow upon(…のすぐ後に続く)から。(Hepburnを見よ。)宿場^{しゅくば}(shikuba), a posting station(宿駅)の意で、「しゅくば(shiukuba)」と書かれる。継立^{つぎたて}, 「つく(tsuku)」(訳者注: tsuguの誤りか、ただしPart IIIは「継立」となっている)to connectと他動詞「立てる」to start off(人を雇う), despatch(急送する)から。人足たちが荷物を引き継いで(connect)運ぶことをさす。(このconnectは、the steamer connects with the train(汽船が列車に連絡する)という状況を思い浮かべよ。)英語でいえばchanging coolies(人足交代)である。最初から最後まで旅行者に同行する人足は「通し人足」(他動詞「通す」pass along (the whole way)から)と呼ばれる。

5. 一 ^{おれ}予が乗る, I rideの意。「—— 駕籠」は直訳がI-ride *kago*で、the *kago* in which I rideの意。駕籠は、棒につり下がっていて、男達はその棒を肩にかついで運ぶ乗り物の総称である。引き戸——, 引き戸の出入口がついている「駕籠」であり、両側の側面に屋根から竹の簾 (bamboo blinds) が吊り下げられて閉じられている「垂れ駕籠」とは区別される。「あんぼつ」は小型の「引き戸駕籠」で、「^よ四つ手」は小型の「垂れ駕籠」である。「宿駕籠 (shik-kago)」は鳥籠のような (hen-coop-like) パランキーン (訳者注: 中国・インドの一人乗りの駕籠) で、「^し宿 (shiku)」すなわちpost-towns(宿場) で得られる唯一の乗り物であることからそのように名づけられた。「山駕籠」はそれと同種の駕籠であるが、概してもっと大きい。「乗り物」(外国人は「のりもん (norimon)') と訛る) は、貴族によって使われるより高級な「駕籠」をさす一般的な語である。その他の「駕籠」には、「^{とめぬり あじろ}溜塗網代 (訳者注: 「溜塗」の誤りか) (将軍が乗る)、「^{にじゅう う あ}二重黒打ち揚げ (nijiu-kuro-uchi-agé)」「^{ちやう}老中」すなわちminister(大臣) が用いる)、「^{こしぐろ}腰黒」(「^{若年寄}若年寄」すなわちvice-minister(次官) が用いる)、「^{びやううち}釘打 (biô-uchi) (上流階級の女性が乗る)、「^{こし あじろ ひきどきりぼう}腰網代」^{ひきどきりぼう}「引戸切棒」(両端が四角に切り取られた短い棒の駕籠)がある。^{いっちやう}一挺、「いちちやう」の縮約したもの。^{ちやう}梶、「^{駕籠}駕籠」や荷車、「^{人力車}人力車」の助数詞。鉄道車輛には大抵「^{りやう}輛 (riô)」が用いられる。^{ほん ま}本馬, 馬一匹分の積荷のことで、「^{しじゅうはちかん め}四十八貫目 (shijiu hachikammé) (48,000「^匁匁」すなわち400常用ポンド)をさす。^{いっぴき}一疋は「いちひき」の縮約したもの。「^{ひき}ひき」(Astonの§26を見よ)は、ここでは馬の意味から積荷の意味に転用されている。^{からしり}空尻, (訳者注: 本馬の) 半分の積荷で、200常用ポンド。^{りやうかけ}両掛 (riogake), 「棒」の両端に吊り下げられている、軽い材質でできた一組の箱で、一人の人によって運ばれるもの。^{か りやうかけ}荷は「^{りやうかけ}両掛 (riôgaké)」の助数詞で、「^{いっか さん が ろっ}一荷」「^{さん が ろっ}三荷」「^{ろっ}六荷」「^{じっか}十荷」と数え、その他は規則的に数える。(訳者注: 両掛の) 付属物には、棒の端に通す木製の輪留めピンの「^{くさび}くさび」、棒に通す四角い輪の「^{かなもの}金物」、箱を乗せて支える木製の枠の「^{どろだい}泥台」、泥台から垂れ下がっている「^{とう}藤」、箱の一つに入っている仕切り箱「^{かけご}懸子」、布の覆い「^{ゆたん}油単」、油紙でできた覆い「^{とうゆ}桐油」がある。その他によく使われる語としては、to carry on the shouldersの意の「^{担ぐ}担ぐ」、「^{琉球 (riukiu)}琉球 (riukiu)」と呼ばれる筵 (matting) で覆われた竹製の箱の「^{あけに}明荷」、柳でできていて上からすっぽりかぶせる蓋のある籠の「^{こうり}行李」、細々としたものを入れる袋の「^{がっさいぶくろ}合切袋」、大きくて青と白の縞模様のある馬用のマント「^{ばとうゆ}馬頭油」、荷物の運送料である「^{駄賃}駄賃」、人足の雇い賃である「^{人足賃}人足賃」、利用料の「^{ちんせん}賃銭」、荷馬に乗る料金「^{乗り前}乗り前」、chair bearer (椅子駕籠運び) の「^{駕籠かき}駕籠かき」(ただし「^{駕籠屋}駕籠屋」の方が丁寧な言い方とされている)、人足の意味の俗称「^{くもすけ}雲助」がある。「^{こ に だうま}小荷駄馬 (konida m'ma)」あるいは「^{小荷駄}小荷駄」はpackhorse(荷馬)の意。「^{まご}馬子」はpackhorse manの意。「垂れ駕籠」の通常料金は「^{に にんばら}二人払い」two-men pay、「^{引き戸駕籠}引き戸駕籠」の通常料金は「^{さん にんばら}三人払い」three-men payである。「^枚枚」(漢語) は人足を数える助数詞であり、「^{こうり}行李」は荷物の助数詞である。後者は

「戸前」のように和語の数詞を取る (Astonの§26を見よ)。(訳者注:「戸前」は土蔵を数える単位。)

6. 一直訳はThen as far as [the] *akéni go (akéni daké)* buying, as-to *riôgakë* old-one mend fashion in (so that somebody mends) [I] will do.
7. 一直訳はAs-to such things you had-better arrange in any way (*dô demo*).
8. 出来揃う, to be completed and assembled (完成して揃った) の意。「できる」は自動詞で、to be completed (完成した) と「揃う」to be all assembled (全て揃った) から。
荷造り, packingの意で、直訳はbaggage-making。「—をする」はto do baggage-makingのことで、「荷を造る」も同様に用いられる。夜具 (漢語), 直訳はnight furnitureで、bedding (寝具類) のことであるが、「布団」(漢語) すなわちmattresses (敷布団) と、「夜着」coverlid in the form of a wide-sleeved dressing gown (袖の広いガウンの形をした上掛け) のみが含まれる。直訳はTo-begin-with, august journey's things are-complete-and-assembled. From this [I] will-do [the] packing, but as-to half-horse-load's side my baggage and your august bedding [I] will-fasten-on. Since the inn's bedding probably-can-not-be-used [by you].
9. 宜しは恐らく「よろし」または「よろしい」all rightの縮約で、「よし」のかわりに「よろし」または「よろしい」も使われる。調う, 自動詞のto be arranged (整った), completed (完成した) の意。先触れ, 次の宿場に (訳者注: 荷物を) 渡す前に送る注意書きのことで、人足がどの程度必要なのかなどを示すもの。「先」aheadと、「触れる」to notify (通知する) の語根から。直訳はAll right, all right. Well, thus [the] preparations also now are-completed. As-to starting, since [it] is to-morrow-morning seven (two hours before daylight), [the] notice [you] have probably-sent, eh!
10. や, andの意。直訳はYes. A-short-while-ago sent out. As to coolies and horses, etc. a little carlier 'eight-half-time' will command.
11. 揺れる, (訳者注: 原文i.e.はi.v.(自動詞) の誤り) 自動詞のto shake, to rollの意。(訳者注: 「そうして」以降の) 直訳はand august *kago* so shaking will not do.「揺れる」の他動詞は「揺らす」。
12. 宿役人 (shiku-yakunin), または単に「役人」ともいうが、これは宿駅の主人やその補佐役たちに与えられた官職名のことである。(訳者注: 原文designaiedはdesignatedの誤り。) 御制度; 直訳はaugust decisionで、すなわち政府により定められた賃金のこと。「通り」は「とおり」in accordance with (…に従って) のこと。駄賃帳, 馬や人足を雇う際に用いるan account-book (「帳面」) のこと。
13. 書き記しましてす (kaki-shirushimashites') は「書き記しましてございます」ということ。
14. 揚げない, 直訳はdo not lift up.「あげる」はto lift up, preparatory to starting (出発に先

- 立って上げる)の意であり、それゆえto start with(…と共に出発する)の意となる。命令法の「あげろ、あげろ」は、乗客によってgo on, go on(前へ進め)の意味で用いられる。日輪の^ひ有^ある^{うち}内(第5章43番を参照)、(直訳は)inside sun's isで、whilst there is still sun(まだ太陽がある間に)の意である。(全文の)直訳はWhy, coolies, august kago not-lifting's [thing] is [it]. And pack-horses quickly do [you] not-fasten-on? Only saying 'Yes, yes' from before, how done's [thing] is [it]. Here!(第11章44番を見よ。)We whilst there-is sun stopping-place to must arrive.^あ「揚げないの」と「したの」(訳者注: Part Iはshita n', Part IIIも「したん」)のものは「もの」thingの代わりであると考えるのが最良である。
15. 一兼ねるは、複合動詞の後部要素として用いられる場合、前部要素の動詞の遂行が困難であることを示唆する。例えば「信じかねます」はcan hardly believe(ほとんど信じられない)というように。直訳はI say, master, since today [we] really have-been-laborious, a-little trinkgeld pray; truly [I] could-hardly-say [it]. 文末の「が」は、その節が倒置されていることを示す。本来なら「旦那」の後に来るべきところである。
16. 一蠹^{べらぼう}漢, 「馬鹿」とほぼ同じ意味の、罵倒の言葉。めが後接して極度の侮蔑や嫌悪を示している。立場^{たてば}, 駅間にある人足のための休憩所。「——する」は「立場」で休憩すること。癖^{くせ}, bad propensity(悪い性癖)のこと。道徳上または物質上の永久的な歪みを意味する。「くせに」は、悪癖や事実などが矛盾していることを含意している。すなわち、inconsistently with the bad practice of doing nothing but (*bakkari*) stop at the *tateba* (you ask for a tip!)(「立場」で休むこと以外には何もしていない(「ばっかり」)という悪い行動とは矛盾して(お前達はチップをねだりやがる!))という意味になる。他には以下のような例がある。「知っているくせに(知らないふりをする)」though you know it perfectly well (you pretend not to).「酒はたくさんも飲めないくせに、とかく意地が悪い」although he cannot drink much *saké*, he is quite greedy of it.(彼はあまり酒が飲めないにもかかわらず、しきりに酒を欲しがる。)
「臆病なくせに夜歩きは好きだ」though he is such a coward he is fond of going out at night.
「悪い男のくせにめかしておる」in spite of his ugliness he likes to adorn his person.(醜悪な顔をしているにもかかわらず、彼は自分を飾り立てるのが好きだ。)
「女に嫌われるくせに色ぶっている」(または「粋なつもりだ」)although the women do not like him, he gives himself the airs of a ladykiller (or, imagines himself attractive).殊に、以下の直訳はand-besides, as-to us, [it] is government-service journey.
19. 一直訳はAt this post-town greatly [the] arrangements being-good, [it] is-well.
20. 一当^{しゅく}宿 (toshiku) (漢語); this post-townの意。「当」(漢語)は和語の名詞の前にも漢語の名詞の前にもつく。例えば「当冬^{とうふゆ}」this winter、「当年」this yearのように。罷^てり出^でる; 語根「罷り」は謙遜の接頭辞であるが、本心からの謙遜でも表面上のみの謙遜でも用いられる。旅^{りょしゅく}宿 (rioshiku) (漢語); inn(旅館), lodging-place(宿)のこと。本陣 (漢語),

直訳はhead-quartersで、貴族や役人が使う旅宿をさす。差し合い, obstructing(差し障り)の意。これは、二者が同時にかちあっている(「あい」、一方が他方の妨げとなっている)という考え方である。処無く, unavoidably(避けがたく、やむをえず)の意で、「よりどころなく」without a place to take refuge in(避難する場所が無く)の縮約。「脇本陣」はa supplementary official inn(予備の公的旅館)で、「脇」side, neighbourhoodから。直訳はa honjin in the neighbourhood。「どうぞ」の後に「お願い申します」を補って解釈せよ。「申し付けおきました」は「申し付けておきました」のこと。直訳はWe are [the] this-post-town-officials, and (ga) are come-forth for august conducting. As to august lodging-place, [the] honjin's obstructing being (nité), unavoidably with (nité) wakihonjin satisfaction [pray for]. But august difficulties not fashion in have-commanded.

21. 一何は兎もあれ、「ある」の語形変化表(訳者注: 第1章14番)を見よ。
22. 一宿, 「宿屋」innのこと。其(訳者注: Part I の例文はso、Part IIIの本文も「其」), 「それ」that, It(訳者注: 冒頭のERRATAでItをitに訂正)の省略形。
23. 一奥座舗, (直訳は)back room。「座舗」は「座」(漢語)seatと「舗く」to spread(敷く)から来ており、seatsが敷いてあるところの意で、すなわちa room(部屋)の意である。居間, a private room(私室・個室)の意。「いる」to beの語根「い」と「間」roomから。済まぬ, will not do(…してはならない)の意。自動詞「済む」to finish(終わる), be complete(完了した)の否定形。恐らくは「役目済まぬ」duty is incomplete(任務遂行が不完全である)ということであろう。直訳はHollo, landlord, to-make back-room's clean-and-neat place [my] master's private room fashion in [do]. And every-thing carelessness if-there-be it-will-not-do, well paying attention。「様に」の後にあるべき「しろ」doが省略されており、また「気を付けて」の後にあるべき「くれろ」が省略されている。
24. 一家内(漢語)の者, 直訳はhouse-interior's peopleで、すなわちthe family and servants(家族や下僕)のことであるが、特に後者(下僕)をさすことが多い。はは(訳者注: 家内の者に)言いつけておいたという事実を強調しているのであるが、同時にそれが不十分であったかもしれないという恐れもあることを示唆している。行き届きません, 「行き届く」to be thorough(周到である), to be properly carried out(適切に遂行されている)から来る「行き届きません」の江戸訛り。「行き届く」は「行く」to goと「届く」to reach toの複合語。「どうぞ」の後に「お願い申します」を補って解釈せよ。御上, (直訳は)august superiorで、your master(あなた様の主君)の意。直訳はyes, yes, although [the] people of [the] family also all well ordering [I] I have-left, as-to not-being-thorough points (tokoro) august directions earnestly [pray for]. Since august bath-tub also from sometime-ago is boiling, to your-master please-to enquire.
25. 一不都合(漢語), inconvenience(不便), bad management(良くない処理)の意で、「不」notと「都合」convenienceの複合語。「無い様に」that there be notの後にあるべき「心

- を用いろ」(直訳)use heartすなわちbe carefulという語句が省略されているものと考えられる。嫌い, an object of dislike(嫌いなもの)の意で、「嫌う」の語根。適宜^{ほどよ}く, moderately(適度に)の意で、「ほど」quantity(分量)と「よく」wellの複合語。(直訳は)the quantity being wellで、すなわちmoderately, not excessively(過度にならない程度に)の意である。加減(漢語), degreeの意で、ここでは熱さの加減の意。「加」increaseと「減」decreaseから。この節(訳者注:「適宜^{ほどよ}く加減を頼むぞ」)は「加減を適宜^{ほどよ}くするように頼むぞ」を省略したものである。直訳はH'm, just-now when [I] asked, since it seems [he] uses [it] directly, be-attentive that there-be-not (nai) bad arrangement. And as [a] too exceeding-hot [bath] is [an] object-of-dislike, eh! moderately degree [I] request.
26. 直訳はAugust hot-water when-has-finished (i.v.) food offering-up will [it] be well?
27. (直訳は)As by-and-by from here order [will] do till then to-be-waiting is-good.
28. (訳者注: 29.の誤り) 其以前^{それまえ}に, before that(その前に)の意。御酒^{ごしゅ} (goshi) (漢語), 「御酒^{ごしゅ} (goshu)」のこと。敬語の「御」と、「さけ」の意の漢語「酒^{しゅ} (shiu)」から。相手に「酒^{さけ}」を勧める場合に用いられる語である。直訳はyes, sir, is [it] all-right with gozen alone? Before that, how is august sake? 御膳^{ごぜん}はここではan ordinary meal(定食)全体のことをさし、「汁^{しる}」(味噌で作られたスープ)、「めし」すなわち茹でた米、「おひら」a water soup(訳者注: 英語は「冷たい汁」の意と思われるがやや不可解、「おひら」は平碗のこと)、「皿」a plate containing fish or some substitute(魚かそれに代わるものを盛った皿)、「おちよこ」a small cup containing boiled beans(煮豆を盛った小さな器)などから成る。以上に加えて、pickles(「香^{かう}の物」「漬^くけ物」「香^{かう}々^{かう})を盛った小さな皿も付く。
30. 用いる, to use(使う), to indulge in(嗜む)の意。銚子(漢語), 厳密には熱い「酒」を入れておくための鉄瓶(kettle)のことであるが、通常は熱い酒が注がれたbottle(訳者注: 徳利のこと)をさすのにも用いられる語である。つけて, 直訳はadding to(…に付けて)であるが、ここではto the dinner(夕食に付けて)の意である。「つける」は「酒」を温める場合にも用いられる。「積^{つもり}で」の後にあるべき「いてくれろ」please beが省略されている。直訳はWhat, what! as-to [my] master since [he] is teetotaller august-saké a-little even does-not-condenscend-to-partake of. But as-to me, since [I] use a-little, eh! afterwards to here only one bottle adding, please come. But as-to this, since [it] is private to [my] master, [please be] in that understanding.
31. 委細(漢語)は「委細に」circumstantially(詳細に), completely(完全に)のこと。
32. 煮花^{にばな}, freshly infused tea(煎じたてのお茶)のこと。「煮る」to boilの語根と「花」flower(新鮮さを象徴している)から。「様に」の後に「そう言ってくれろ」を補充せよ。(訳者注: 「御膳は」以下の)直訳はAs-to food since [it] now is-finished, [please tell] in such-a-way-that [they] offer good fresh-tea. By [that] oppourtunnity [the] post-town-official [I]

desire-to-have-called.

35. 一儀 (漢語), thingの意で、「こと」よりも形式張った言い方。挑灯^{ちやうちんび}引け, dawn(明け方)の意。直訳はlantern-withdrawingで、「挑灯^{ちやうちん}」lanternと自動詞「引ける」to withdraw(引込む)から。一晚中灯っていた明かりが消される、または運び去られる時刻をいう。御^お立ちに成る, 直訳はto become august startingで、すなわちthe august starting takes place(ご出発が行なわれる)の意。この成句は非常によく使われ、「お出でなさる」の代わりに「お出でに成る」が使われるのもその一例である。含み, understanding(理解), bearing in mind(心に留めておくこと)の意で、「含む」to bear in mind(心に持つ)の語根である。ただし、「含む」の直訳はto hold in the mouth(口の中に留めておくこと)である。「心得」や「つもり」も同じ意味である。「で」の後にあるべき「いてくれろ」が省略されている。慣れた, experienced(熟練の)の意で、「慣れる」to become familiarの直説法過去形。乗り^に嫌い, 「乗る」to rideと「にくい」detestable(憎むべき)から (Hepburnを見よ)。同様の方法で、「つらい」painfulという語を動詞の語根に後接することもできる。例えば「この靴は小さくて履きづらい」these boots are so small that they are painful to wearのように、「附^{つけ}て」の後に「くれろ」を補って解釈せよ。(直訳は)H'm, [it] is-not any other affair, but since tomorrow as-to [my] master at dawn [the] august starting takes place, please be in that understanding. Everything in obstruction not fashion-to-do is-good. Especially as to august kago coolies, well experienced individuals [I] wish-to-have selected. Since frequently master also saying that [it] is-uncomfortable-to-ride, behind's posttown, etc. at also august annoyance [it] is (for was), in-fitting-degree good coolies be-assembled fashion in [please] well pay attention.
36. 一^か欠^だけ^{もの}出し者, 生まれた場所を捨て、町を転々としながら様々な方法で生計を立てようとする者のこと。渡^{わた}り者, 求められるのに応じてあちこちへ移り住んで(「渡る」)ばかりいる人足のことで、それゆえ経験豊富になる。直訳はYes, sir, yes, sir. As-to this post-town, strangers and-that-sort (nado) [we] do-not-employ. With other post-towns differing, since as-to kago coolies and-that-sort particularly selecting [them, we] employ migrators, as-to that matter august anxiety is unnecessary.
39. 一 (訳者注: 「何したもんだ!」から「揃わないのか?」までの) 直訳はHow done thing is [it]? Last-night that quantity (to that extent) having discussed, is [it] not [that one] is-annoyed, as-yet [the] coolies are-not-complete? 「置いたに」の代わりに「置いたのに」と言うこともできる。この成句は第5章43番の「よいのに」という成句と同類である。一体はここでは非難の口調で言うPray!のような語である。
40. 一 「催促致しに」の代わりに「催促に」も用いられる。

付記 本稿は平成18-20年度科学研究費補助金(若手研究(B))の研究成果の一部である。